

一問一答方式による一般質問



集合住宅などにおける  
高齢者の外出支援等

布田 恵美



**問** 市として高齢者の外出支援をどのように考えているのか。

**市長** 高齢化率の高まりは今後も徐々に増えていき、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう介護予防や認知症予防などの観点からも、外出支援は大切で大事なことと考えています。

**問** 全ての活動は移動から始まる。令和6年4月からの市民バス運行計画に向けて、ルートや運行時間

帯・路線バス・デマンドタクシー、Aーバスの準備も進んでいくが、外出困難な高齢者対応をおざなりにしてはならないと考える。対応策をしっかりと進めていくべきではないのか。

**健康福祉部長** 現在、地域包括支援センター、ケアマネージャーおよび生活支援コーディネーターが個人や地域の状況を把握し、必要な支援を行っています。引き続き、気軽に支え合える仕組みづくりを進めていきます。

階段昇降補助器具導入を

**問** 私が聞いている声の中には、

県営・市営住宅に暮らす方で、高齢化とともに足腰が弱くなり部屋からの外出や車椅子使用など、特に階段昇降に不安や困難を抱えているケースもある。対策として、

階段昇降の補助的な器具がある。外出支援策として導入を検討し、リースやレンタルとして高齢者外出支援につなげていく取り組みとして進めてはどうか。

**健康福祉部長** どの程度の経費が分かりませんので、しばらく研究していきます。

**問** (高齢化率の高まりを見据えて)早い段階から、外出支援につながるような用具類も研究し取り組みを進めてほしいと考えるがどうか。

**市長** 建築年数が経っている建物に関しては、低層の新たな建物により高齢者の皆さまが暮らしやすい場所に移動させることも含めて、今後研究していかなければならぬ時期と考えています。

◎その他の一般質問  
・フードドライブ事業



民間施設の避難所締結

酒井 信幸



**問** 県が公表した新たな津波浸水想定を踏まえ、臨空工業団地内の物流施設と10月31日に津波避難場所の協定を締結した。これまで民間施設との避難所締結について提言してきたが、経緯を伺う。

**防災課長** 高さを確保する建造物が少ない東部地区の避難施設等について検討を進めていた中で、津波避難に有効な高い建造物を所有する、株式会社プロロジスと協定を重ね、同社との間で緊急避難場所としての利用に関する協議が整い、協定の締結となりました。

避難ビル標識設置はいつ

**問** 緊急避難場所となった建物には、津波避難ビル標識が取り付けられていない。一目で分かるように取り付けるべきと思うが。

**防災課長** 避難看板の設置については、施設所有者との協議が必要となりますので、協議を進め次第対応したいと考えます。

**問** 標識を建物の東西南北に表示するべきと思うが。

**防災課長** まだ協議には至っていないが、

ませんが、市道側か敷地内に付けるか、施設所有者と協議を行いたいと考えています。

**問** 市東部には約8500人が住み、臨空工業団地では約5000人の方々が働いている。コロナ禍での避難所は玉浦中学校だけで、受け入れ人数は122人となっている。東部地区は避難所が大変手薄だと思われる。1事業所だけではなく、近隣の事業所との緊急避難場所の締結を進めるべきと思うがどうか。

**総務部長** 緊急避難場所を多く確保できるよう多くの事業所に声掛けしていきたいと考えています。



◎その他の一般質問  
・公共施設等総合管理計画